



東京拠点特集

世田谷希望丘ホーム

地域交流報告

世田谷希望丘ホームでは理念でも大事にしている地域との関わりを積極的に行ってきました。その一部をご紹介します。



地域の若者との交流

残念ながら新型コロナウイルスの影響によりストップしてしまっています。特に力を入れてきたのは地域の若者との交流です。

隣接する保育園とはほぼ毎月、年長さん六十名くらいが来てくれていました。お歌の披露、入居者の皆さんと一緒に折り紙遊び、握手&お話しタイムなどなど入所者の皆さんは子供が大好きなので自然と笑顔がでます。

中学校二校から四名、三日間にわたる職場体験もしていただきました。

高校生は隣接する青少年交流センターより三名、傾聴、イベントのお手伝いなどのボランティアにも来ていただきました。



地域ボランティアの受け入れ

地域で活躍されているボランティアさんの受け入れも積極的に行っていました。

ウクレレサークル、リラシクパークなる大画面でクイズ、懐かしの映像、懐かしい歌を皆で楽しみながら過ごすイベント、津軽三味線、フルートなど多くのボランティアさんを受け入れてさせていただきました。(渡辺)



特集・世田谷希望丘

防災についての取組み

火災想定編

福祉施設にお勤めの方はご存知だと思いますが、改めて書かせていただきますと、福祉施設での防災訓練（自衛消防訓練）は、私が以前勤務していた子どもの施設では毎月、介護施設では年間二回の自衛消防訓練が義務付けられています。

私どもの希望丘ホームでは、基本的に六月と十二月に自衛消防訓練を実施しています。六月は日中想定で、十二月には夜間を想定した訓練を行っています。



この自衛消防訓練は施設内の「防災委員会」において、各委員が様々な事をシミュレーションし検討しています。

昨年六月に実施した自衛消防訓練では、当日、朝からの雨も上がり、定刻に非常ベルを鳴動させ、初期消火失敗により避難開始という段取りで、一部のお客様も参加し、ベランダに非難させると想定で行いました。

齊藤理事長も見守る中、お客様に扮した職員がはしご車を使って避難する訓練は、かなり迫力があるものでした。



秋の火災予防運動編

東京消防庁・成城消防署長より、秋の火災予防運動にあたり「消防行政に深い関心を寄せられ防火に関する広報を積極的に推進し地域社会の安全安心に寄与されました、深く感謝の意を表します」との感謝状を拝受し、施設内に掲げています。

時機を見て、(適)マークを申請できるように、努力していきたいと考えています。



炊き出し訓練編

令和二年十月には、震災時にも対応出来るように、かまど燃料を使用して炊き出し訓練を行いました。緊急時には、固形燃料等を使用できるよう木炭で使用する予定ですが、今回は電気を使い、燃料は灯油で、水をかまどの中に入れて、どのくらいでお湯が沸騰するか時間を計ったり、お湯やかまどの状況を防災委員会のメンバーで確認しました。かまどについては、使用方法がとても複雑で、これを震災があった当日にするとすると、かなり手間取ったことであろうと感じました。

予めテストを行って良かったと思っています。

(佐藤)

新型コロナウイルス感染症対策

十二月に入り、再度コロナ感染者が全国的に増えてきています。おかげさまで世田谷希望丘ホームでは、感染者は出ていませんが、今後インフルエンザ、ノロウイルスといった冬に流行しやすい感染症との同時感染も考えられます。(注①)

徐々にコロナウイルスの特徴が分かってきました。ワクチンや特効薬はないものの感染経路等を知ること、毎日の体温測定、マスク着用、手洗い励行、消毒は当たり前、三密を避けることの知識や対処方法が分かってきました。



正しい知識と少しの恐怖を持つこと、ご利用者様の健康をお守りすることになると信じ職員一丸となって感染対策に取り組んでいきたいと思えます。

★毎月二回、コロナ対策シミュレーションを実施しています。コロナの基礎知識、防護具の使い方、感染者が発生した場合の感染ユニットと非感染ユニットはできるだけ動線が交わらないようにと実践形式で学んでいます。

六月から実施していますが当初は参



加人数も数名でしたが、最近では看護師以外で十名近くの職員が参加しています。

★一日七回換気タイムを行っています。換気時間を一階の事務員が音楽とともにお知らせしています。気温が下がって寒くなりましたが換気は大切な感染対策です。

★休憩時間は密にならないようにしています。本日は休憩時間は同僚と楽しく話をしながら食べたのですが…。

コロナが収束しましたら楽しく休憩時間を過ごしたいですね。

(希望丘ホーム 医務室 須藤明子)



注①発行直前に都市型経費老人ホームトラスト希望丘にて新型コロナウイルス感染が判明し緊急対策を実施中ですが、詳細はあらためて…。



新・管理者紹介



世田谷希望丘ホーム
施設長補佐
丸山 義晴

十月一日より世田谷希望丘ホームへ入職をさせて頂きました丸山です。

出身は北陸地方にある福井県です。入職前に『楽晴会のケアの特徴』というものをホームページで拝見し、これまでの介護で実践出来ていたことや出来ていなかったことを感じながら、また、これまでとは違った視点で考えることが出来るという楽しみを持って入職させていただいた事を覚えていきます。入職後には毎朝の朝礼にて『社是・経営理念・品質方針』を唱和しながら、日々、お客様のその心に下りているのかを考えながら仕事をしています。二〇二〇年は世界中でコロナが猛威を奮い、全ての日常が様変わりをしてしまいました。今後も感染症対策の為、ご協力をお願い致します。入居者の皆様には日々のケアやレクリエーション、生活リハビリを行いながら、充実した生活を送っていただけるよう、皆で力を合わせて参ります。



世田谷希望丘ホーム
介護長
後藤 恵美

十月より着任致しました後藤恵美です。

九州は火の国・熊本で、両親はもとより、祖父母からの愛情もたっぷり受け育ちました。認知症の祖母と暮らした毎日は今でも宝物です。これから、小さくてもほっこりする思い出をたくさん作り、ご家族の皆様にお伝えできるよう、職員と力を合わせていきます。どうぞよろしくお願い致します。



世田谷希望丘ホーム
相談員
中村 里佳

令和二年十月より新体制となり約二ヶ月が経ちました。相談員部門として

「年度内九十九床満床」を最優先課題とすすめています。又、東京はコロナ感染第三波を迎え見えない強敵と日々戦っています。半年以上続いている面会制限(ガラス越し、TV面会)と訪問マッサージ、歯科往診の制限はご利用者様に



多大な影響を与えています。現状維持と機能低下防止を目標に各職種が心身のケアを強化しなんとこの想定外の状況を乗り越えたいと思います。

私事では多くの方に支えて頂き入職して1年半が経ちました。まだまだ慣れない事、初めての業務があり、バタバタしていると「今日はバタ子さん、頑張れー」と声をかけられホッと一息つく事ができます。

楽晴会の理念を心に留め入所者の皆様に寄り添った相談業務が提供できるよう頑張りたいと思います。

都市型軽費老人ホーム トラスト希望丘

新型コロナウイルス感染症対策のため、四月より外出自粛制限の中で二十名のお客様が生活されています。

四月、五月頃は皆さんでマスク作りを行ったりして、散歩以外はほとんど外出されませんでした。

夏祭りも中止され、トラスト希望丘のリビング内ですいか割りを行い、ストレスの発散を行いながら楽しまれていました。おやつ作りのレクリエーションも毎月行っております。

九月はクレープ作り、十月はおはぎ作りを行いました。皆さん一生懸命手作りに参加され毎月ほぼ全員参加で笑顔の絶えない日々を送っています。

感染リスクを避けながら少しでもストレスを発散して頂ける様支援をします。

(石井)



世田谷希望丘ホーム
三年目を迎えて



楽晴会理事
高齢者総合福祉施設
世田谷希望丘ホーム
総合施設長 渡辺 博明

世田谷希望丘ホームは二〇一七年四月一日にオープンして三年目を迎えています。

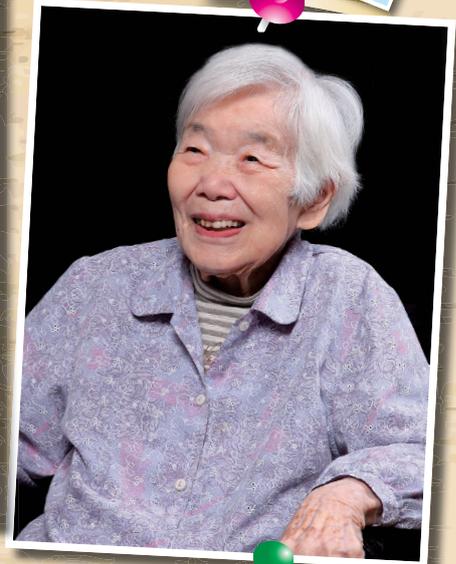
介護職員の採用が東京都世田谷区は特に難しく、有効求人倍率が介護職員は十倍（一人を十社で取り合う）という状況です。

特別養護老人ホームはようやくあと一ユニット（十一名）をオープンできたらフルオープンというところまでできました。

まだまだひよつこの施設ですが、いい人材も揃いつつあり、明るい未来が見えてきた気がしています。

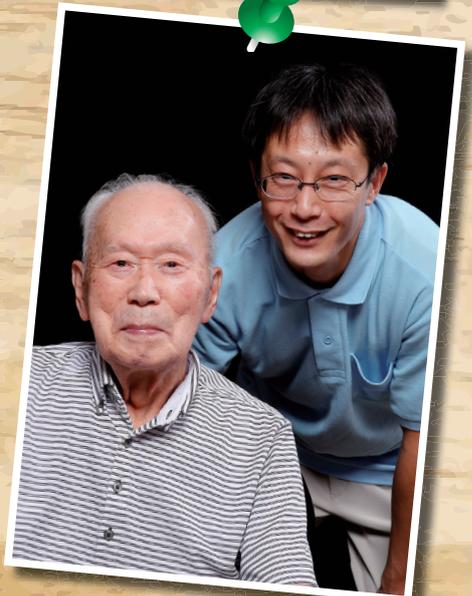
楽晴会の理念でもある、お客様はもちろん、職員、地域社会との関りを大事にする暖かい施設創りをしていく所存です。

世田谷フォトグラフィー



世田谷希望丘ホーム
ナイトアシスタント
山下 武

世田谷希望丘ホームでナイトアシスタントとして働いている山下武さん。実はプロのカメラマンでもあります。イベントでも写真を撮っていただいています。が、昨年の敬老の日には自前でスタジオを作っただけ、入居者の皆さんの笑顔を撮影していただきました。感謝です。（施設長 渡辺）



府中・車返拠点

元気の源!

車返団地

デイサービスセンター・スカイ

所長 加納 一城

第66号のゆうとびあで府中・車返拠点の特集を組んでいただいていたから早いもので一年が過ぎようとしています。

新型コロナウイルスの感染拡大という危機的な状況が上半期から現在に至るまで続いておりますが、ご利用のご利用者様は何よりデイサービスでの活動や交流を毎回心待ちにして下さっております。

来所時に馴染みの顔が見えると、皆さん安心されるようで自然と表情も柔和になります。

手洗い、消毒、マスク着用などの感染予防を行いつつ、お話しをしたり製作活動を行ったり。忙しく過ごす時間はあつという間で「えっ、もう帰る時間なの」「楽しいと一日が早いわねえ」というお声を毎日のように聞くことができ、本当にうれしい限りです。

そんな中、車返デイが最も大事な活動として位置づけているのが午後二時から行う「集団体操」です。

皆さん昔に比べて身体を動かす機会が減っていると思いますが、この時間は老いも若きも男も女も関係なし。元気な方はみんなそろって楽しく笑って、時には真剣に運動に集中しています。

でも1時間の体操は疲れてしまう・・・後半は運動を取り入れたゲームで気分転換!

この活動こそが車返デイ利用の方の元気の源なのです。



手作りの良さ

車返団地コラボケアセンター

所長 渡辺 富美

手作りの食事の提供

トントントント朝は布団の中で包丁の音、ジュージューいい匂いが体操中に漂ってきて食欲を誘う。「はやく食べたい」「今日は何だろう」とご利用者様がテーブル拭き、食事の味付け、取り分けを手伝ってくださいます。

食後にご利用者様からは「今日も美味しかった」「私はもう少しご飯を減らして欲しい」「私は足りないわ」「お魚嫌いだけどこの味付けは食べられた!」「いつも野菜たっぷりでおいしい」「洗いもんなら任せて」「私は食べる専門!」「美味しい」と言ってもらえてう



れしかった」「今日の食事は茶色ばかりだった」「提供時は冷たかったよ」「最近、この固さでも食べられないみたい」「残すのが嫌で無理して食べているようだ」「少し刻んでみましようか」「とろみをつけたらどうかしら」「それでも食事後に口の中に食べ物が残るので服薬前に口腔ケアをしたほうがいいのでは」「職員からも活発な意見が飛び交います。

利用者の皆様の变化や好みに即座に対応できる、手作りの食事の提供を事業所が開所当時より行っています。

お腹が空いてくる時間に、換気扇から食事作りのいい匂いが近所に漂い、レストランと勘違いされることも。

一日三回手作りの宣伝効果を生んでいます。



手作りマスクを提供

マスクが市場で手に入らない時に、子供用やいろいろなサイズを利用者の皆様と一緒に作成し、コロナ禍が早く終息し、地域の方々と笑顔で触れ合える日が来るようにと気持ちを込めて、通りかかった地域の方へ手作りの幸せをお裾分けしました。



トピックス

令和三年八月八日

第二回

人生食堂開催!!

楽晴会ソーシャルワークセンター

中川 れい子

五年前に、保育園に入れなかった東京の孫のためにヘルプに出かけ、ようやく落ち着いて、さあ三沢に帰ろう、その前に吉祥寺のハーモニカ横丁とやらを覗いてみようと思った時のことです。

うろろろした結果、海鮮井屋さんにはいり食べ始めたとき、小学一年か二年位の男の子がすーっと入ってきたら、店長らしき人が手招きして店の端っこに寄せ、ささーっと料理を作り、慣れた感じでお盆に乗せ子どもに渡しました。

たぶん「賄い食」でしょう。男の子がお盆を受け取り、五百円玉を渡して店を出たところに黒服を着た父親らしき人が来て受け取りました。「ああ、この子は父子家庭で父親は夜の仕事に出て、一人でご飯を食べ、朝帰ってくる父を待っているんだ。」と思つたら涙が浮かびました。

この子は良い方かもしれません、食べられない子もいますから。東京ではあちこちで子ども食堂が立ち上

がっていました。でも本当に必要な子には届かないのが現実です。「何とかならないのか」と吉祥寺を楽しむ余裕もなく、帰路につきましました。

今年の六月に青森県社会福祉協議会よりお米とシチュールウ二〇〇人分の寄付がありました。よし！野菜のたっぷり入ったシチュールの弁当を作ろう！届かない子たちに届けよう！と理事長に相談しました。理事長から「大人も食べられない人がいる。子ども食堂ではなく人生食堂にしよう。大人が食べられないれば子供も食べられない」ということで人生食堂がスタートしました。

職員からたくさんの野菜の寄付があり、「野菜たっぷりクリーム煮」と名付けました。職員に呼びかけたところ、多くの職員からボランティア希望と応援メッセージが届きました。何より頑張ってくれたのは栄養士と調理員です。洗って刻んでおいしいクリーム煮を作ってくれました。

緑ヶ丘、大町、堀口の放課後児童デイサービスセンターひかりを利用して子供供たちにも届けました。子どもたちは一人も残さずペロリと平らげたと後日談が入ってきました。しかし、何か月に一回開いたからといって何の役にも立ちません。それでも今まで青森しあわせネットワークを利用したことがある方々を

主体に届けることにしました。その後どんな暮らしをしているのか、困っていることはないか、確認もしたかったのです。配達先にはひとり親家庭で、頑張っているけど困窮している家庭や、病気やリストラで働けない家庭、引きこもりの方もいます。「困ったら相談に来て！」心を込めた配達です。

食べていただいた方から「お店のシチュールみたい。野菜もすっごく美味しかった」と感想をいただきました。（作り手もちろんのこと、やっぱり青森の野菜は美味しいです。）

手伝ってくれた方々には本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございます。ありがとうございました。

それにしても思う事は、このコロナ禍である時の男の子はどうしているだろうか、小学校高学年になったはず…。



《福祉教育》

〔令和二年八月〜令和二年十一月〕
〔実習生・小中学校受入れ・講演等〕

三沢老人ホーム
八月三日〜八日

東北栄養専門学校 二年生 二名
〔実習生受入れ〕

松園ケアラウンジ・スカイ
十一月十一日

三沢第一中学校 三年生 一名
〔職場体験学習〕

栄町ぬくもりの家
八月十八日

三沢高等学校 一名
〔インターンシップ〕

令和2年度ボランティア受入状況
2020年8月〜2020年11月

拠点名	事業所名	個人	団体	計
晴ヶ丘	晴ヶ丘老人ホーム	6	4	10
	はるが丘デイサービスセンター	15	9	24
三沢	三沢老人ホーム	10	35	45
岡三沢	岡三沢コラボケアセンター	6	0	6
栄町	栄町ぬくもりの家	67	0	67
	栄町コラボケアセンター			
	三沢訪問看護ステーション	40	0	40
緑ヶ丘児童	緑ヶ丘児童デイサービスセンター	13	0	13
堀口児童	堀口児童デイサービスセンター	1	0	1
計		158	48	206

三沢訪問看護ステーション

八月五日 三沢高等学校 一名

八月十九日 社会人 一名

九月十日 弘前医療福祉短期大学 一名

十月六日・十四日・二十日・二十八日

八戸保健医療専門学校 各日 一名

十一月十一日

八戸保健医療専門学校 一名
〔実習生受入れ〕

堀口児童デイサービスセンター
八月十八日・二十日

八戸学院大学 健康医療学部

人間健康学科 四年生 二名
〔相談援助実習〕

《各拠点日報》

〔令和二年八月〜令和二年十一月〕

晴ヶ丘拠点

【晴ヶ丘老人ホーム】

八月四日 夏を感じる会

九月十一日 敬老会

十月二十一日 作品展示会

十月三十日 総合防災訓練

【はるが丘デイサービスセンター】

九月十五〜十七日 健祝会

十月三十日 総合防災訓練

十一月二十四〜二十八日
祝はるが丘デイサービスセンター開園二十周年

松園拠点

【松園ケアラウンジ・スカイ】

九月十五日 敬老会

十月二十三日 ランチバイキング

十一月三十日 郷土料理会食

【松園グループホーム・スカイ】

九月十五日 敬老会

【松園デイサービス・スカイ】

九月十七・十八日 敬老会

【岡三沢拠点】

八月二十日 ランチバイキング

九月十一日 敬老会

栄町拠点

八月二十七日
訪問リハビリ 理学療法士による内部
研修「筋活動を意識した日常生活」
について

十月十五日 移動販売（丸正呉服店）

十月二十七日 大規模災害時、福祉避
難所としての活動についての訓練

【栄町コラボケアセンター】

九月十一日 敬老会

十一月二十四日 Cafe 42 外食デー

【栄町ぬくもりの家】

九月十一日 敬老会

【松原拠点】

【松原コラボケアセンター】

九月十七日 敬老会

【松原ぬくもりの家】

九月十七日 敬老会

【大津拠点】

十一月二十七日

市内のお店から出前ランチ

【堀口児童拠点】

八月八日 ミニ夏祭り

十月二十四日

青森県立航空科学館のアウトリーチ

「大気圧」サイエンスショー

《御寄贈御礼》

〔令和二年八月〜令和二年十一月〕

光昌寺 様

●お菓子 45 kg

●彼岸団子 25・8 kg

中川光子 様

●手作りマスク 約100枚

蛭名勝子 様

●玄米 30 kg

石川原 武美 様

●衣類 20 kg

公益社団法人日本財団 様

●不織布マスク 1,250枚

御寄贈品

吉田幸恵 松園施設長

●玉ねぎ 10 kg

●いんげん 3 kg

●とうもろこし 10本

平澤由加里 岡三沢センター長

●にんじん 3 kg

山本かつ子 松原ケアマネジャー

●じゃがいも 10 kg

種市博幸 大津施設長

●キャベツ 20個

吉田博之 障害者ボイス施設長代理

●じゃがいも 10 kg

ありがとうございます。

編集後記

今号は東京拠点の特集となっており、現在の状況下での、日々の奮闘の様子が伝わりますように!!
（苦米地）
なんとも手間とヒマがあるような無いような正月があげ新年です。
（齊藤）

